

## 第2章 共通教育プログラム

### 1. 共通教育プログラムとは

共通教育プログラムは、國學院大學のすべての学生にとって必要な学修目標を満たすために設けられた、全学共通のカリキュラムです。必要な学修目標とは、主として、大学で学修する上で、そして、生涯学び続ける上で、必要なスキルを修得することと、主体的に社会に参加するために必要な知識やスキルを修得することになります。以上の目標を達成するために、6つの科目群が用意されていますが、どの科目群がどの目標を達成するためのものであるかは、明確に区別されているわけではなく、どこに重心があるかに多少の違いはあるものの、すべてが一体となって目標を達成するよう設計されています。そして、これらを修得することは、専門科目を学修することとあわせて、最終的には、自らのアイデンティティを確立し、知的に豊かな生活を送ることを可能とするものと言えるでしょう。

つまり、共通教育プログラムと専門教育科目は、互いに独立したものではなく、学生の皆さんが、それらを通有機的に関連させた学修をすることによって、4年間の学士課程教育の教育目標が達成されることが期待されています。

#### 【学修成果参照基準】

ディプロマ・ポリシーに相当する「学修成果参照基準 (RS: Reference Standard)」を以下のように定め、卒業要件 26 単位で修得されるべき学修成果目標を明示している。

##### A 知識・技能

- (RS-A1) 建学の精神と神道精神を理解し、日本文化を説明できる。
- (RS-A2) 日本語を正確に読み、表現することができる。
- (RS-A3) 1つ以上の外国語を用いてコミュニケーションすることができる。
- (RS-A4) コンピュータを活用して学修することができる。

##### B 思考力・判断力・表現力

- (RS-B1) 数値に基づいて思考し、論証することができる。
- (RS-B2) 客観的事実に基づいて論理的に思考し、説明することができる。
- (RS-B3) 俯瞰的視点から思考し、自己の学びを相対化することができる。
- (RS-B4) 社会のルールを理解することができる。

##### C 主体性を保持しつつ多様な人々と協働して学ぶ態度

- (RS-C1) 他者の価値観を尊重し、異文化を受容できる。
- (RS-C2) 協働して最適な解を導き出そうとした体験を持つ。
- (RS-C3) 主体性を持った市民としての協働意識、参加意識を身につける。
- (RS-C4) 身体的または精神的な負荷を意欲に転化することができる。

## 【カリキュラム・ポリシー】

「学修成果参照基準」に定められた12の目標の達成を可能とするために、下表に示された6つの科目群（國學院科目群、言語スキル科目群、STEM系科目群、シチズンシップ科目群、専門教養科目群、ライフデザイン科目群）から構成される教育課程を設けています。各科目群の教育目標に応じた重点箇所を、以下に◎及び○で示します（◎：特に重点を置いている、○：重点を置いている）。

科目区分		学修成果参照基準(RS)											
		知識・技能				思考力・判断力・表現力				主体性を保持しつつ多様な人びとと協働して学ぶ態度			
		A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	C4
國學院科目群	神道と文化	◎											
	國學院の学び	◎											
	日本文化を知る	◎											
	Japan Studies	○		○						◎			
言語スキル科目群	アカデミック・リテラシーズ		◎		○		○						
	基礎日本語		◎										
	英語			◎						○			
	外国語			○						◎			
STEM系科目群	データ・サイエンス				◎	○							
	科学と論理					◎	○	○					
	まちづくりとエンジニアリング					○	◎	○					
シチズンシップ科目群	法学(日本国憲法)								◎	○		○	
	政治と社会参加								○	○		◎	
	法と社会参加								○	○		◎	
	経済と社会参加								○	○		◎	
	行政と市民生活								○	○		◎	
	情報化社会と市民								○	○		◎	
	共存・共生の思想								○	○		◎	
専門教養科目群	日本の文学と歴史						○	○		◎			
	アジアの歴史と文化						○	○		◎			
	世界の文化と思想						○	○		◎			
	法学・政治学					○	◎	○					
	経済学					○	◎	○					
	経営学					○	◎	○					
ライフデザイン科目群	導入科目		○								◎		
	スポーツ科学					○					○		○
	ライフデザイン								○		○	◎	
	PCAP科目						○		○			◎	

## 【カリキュラム構成及び科目群・各科目の教育目標】

### 1. 國學院科目群

國學院大學の建学の精神、学問的伝統に触れ、神道精神の本質と國學院大學が培ってきた日本研究の成果と学問的伝統を学び、日本文化への理解を深める。これを通じて日本人としての主体性、大学に対する帰属意識を涵養する。

#### 神道と文化

本学の建学の精神であり、日本文化の基層である神道の精神を理解する。あわせて、本学の歴史と学統への学びを通じて、本学学生としての自覚を獲得する。

#### 國學院の学び

國學院大學の歴史、学問的伝統を具現化した諸学問を学ぶ。

#### 日本文化を知る

日本の伝統文化の歴史的形成と特質、現代における意義を学ぶとともに、伝統文化の実践を体験する実技体験型授業等を通じて、日本文化の諸表現形態を体得する。

#### Japan Studies

日本の文化、社会、歴史等を英語で学ぶことによって、日本を相対化する視点を獲得するとともに、グローバル環境において日本文化を発信する視点と技能を身につける。

### 2. 言語スキル科目群

社会の中にあつて、特に、グローバル社会の中にあつては、相互を理解し合った上で、コミュニケーションをとることが重要である。言語スキル科目群を構成する科目は、日本語および英語を含む外国語の学習を通じて、そうした異文化理解とコミュニケーション能力を培う第一歩となるものである。それに加えて、論理的な文章を書く能力や説得的なプレゼンテーションをする能力といった言語スキルは、大学での学修も必須の技能と言えるので、そうしたスキルを養う科目も、この科目群に置かれている。

#### アカデミック・リテラシーズ

大学におけるすべての学修の基礎となる日本語理解力、表現力、語彙力、文章構成力等を研磨し、適切な日本語コミュニケーション能力を獲得する。さらに、上記の学修を通じて、論理的に思考することや、外国語の能力を伸ばすことにつなげる。

#### 基礎日本語

発話と文章または口語と文語の双方について、日本語理解力、表現力、語彙力、文章構成力等を研磨する。

#### 英語

グローバル化する知識基盤社会の国際共通語である英語力の習熟を目的とし、読む、書く、聞く、話すの4技能をバランス良く修得することによって、さらには、自身の専門領域に引きつけて学修することによって、英語力を高める。

#### 外国語

英語を除く外国語の導入学修を通じて、学修のために必要な言語スキルの幅を広げるだけでなく、日本語や英語のより深い理解へとつなげる。また、多様な言語を学ぶことを通じて、異文化を理解する手がかりをつかむ。一部の外国語については、発展的学修を行い、当該言語のいっそうの習熟をはかる。

### 3. STEM系科目群

STEMとは、Science、Technology、Engineering および Mathematics の頭文字である。これらの基礎を学修することは、実は文系、理系を問わず必要なことである。また、今後ますます技術革新が進むであろう社会にあつて、エビデンスに基づいて適切な情報を選択し、既成の概念を論理的かつ批判的に検証し、または革新的な提案をするために必要なものでもある。なお、近年では、STEMでは涵養しがたいとされる「創造性」をも育むために、Artを含めてSTEAMという語が用いられることもあるが、國學院大學にあつては、Artの涵養は、國學院科目や専門教養科目を履修することで可能である。

## データ・サイエンス

大学の学修の基礎的スキルであり、社会生活及び職業生活において不可欠な2つのスキル、すなわち、第1に、情報機器の操作方法、情報ネットワークおよび各種ソフトウェアの実践的活用法を、第2に、抽象的に思考し、様々な事象を数的・統計的に処理し、認識されたパターンや数値に基づいて原因や結果を推論する力を修得する。

## 科学と論理

専門的な学修に不可欠な科学的な思考方法および論理的な思考方法を、次の2つの方法で身につける。すなわち、第1に、自然科学の学修を通じて、複雑な事象を抽象化する力、観察された事実から適切に仮説を立て、証拠に基づいて検証する力を養うことであり、第2に、日常生活におけるさまざまな議論の評価に必要とされる論理的基準と原理を学び、仮説を論証する力を涵養することである。

## まちづくりとエンジニアリング

「パブリックデザイン」、「都市計画」、「地域防災・減災」などを題材として、まちづくり、地域づくりを中心に、現在ある問題に対して論理的に導き出された解決策を実現するための具体的な方法としての「技術」を見つけ出す力、および科学に裏打ちされた先端的な技術に基づき、新しいものを創造する力を涵養する。

## 4. シチズンシップ科目群

我々は、好むと好まざるとに関わらず、種々のコミュニティに属している。そうしたコミュニティの構成員（とりわけ市民）として、コミュニティに主体的に参加することの意義や、そもそも市民とは何であるかを考え、コミュニティに参加するために必要な知識と技能、さらに進んで、コミュニティをよりよくするための提言に必要な知識と技能を涵養する科目群である。この科目群を構成する科目は、基本的に、以下のようなことがらを具体的な事例をもとにして、より実践的に学ぶことになる。

### 法学(日本国憲法)

統治構造や法規範の原理原則を定め、自由で公正な社会を築き、維持していく上で重要な国家と個人または個人と個人の基本的な在り方を定めた最も基本的な法としての憲法、とりわけ日本国憲法を学ぶ。

### 政治と社会参加

政治を通じて社会へ参加していくことの意義、コミュニティにおける意思決定のありよう、市民の価値選択を政策へと反映させる方法などを学修する。

### 法と社会参加

社会の規範である「法」がどのような役割を果たしているのか、どのように運用されているのか、そして、あるべき法の姿はどのようなものであると考えられるかなどを、具体的な事例をもとに学修する。

### 経済と社会参加

経済、金融および財政に関わる政策を理解するために必要な基礎知識を身につけるとともに、社会における経済的な営みに、市民がどのように主体的に関わり得るのかを学修する。

### 行政と市民生活

市民社会の中において行政機関がどのように機能し、どのような領域の市民生活に、どのような影響を及ぼしているかを学ぶ。

### 情報化社会と市民

高度に情報化した社会において、情報が市民の価値選択にどのような影響を及ぼし得るのか、そうした状況下において、理想的な情報の取得や情報の発信とはどのようなものであるのかを学ぶ。

### 共存・共生の思想

多様な人びとの結びつきによって構成される社会にあって、いかに互いの存在を受け容れ、尊重し合い、関係性の豊かさを構築していけるかを、様々な視点から学ぶ。

## 5. 専門教養科目群

大学においては、自らが選択した専門科目を深く学ぶことが、当然求められる。しかし、それは、自らが選択した専門領域の科目“だけ”を学べばよいということと同じではない。時には、専門とは全く異なる領域の科目を学ぶことが、専門領域の科目をより深く理解し、または、全く異なる視点から探究するのに資することがある。また、学問を離れて、何らかの判断を迫られた際に、最適な選択をするのに役立つこともある。國學院大學では、そうした他の領域の専門科目を学修する機会を保証するために、全学オープン科目を設けているが、そこに属する専門科目の学修をより容易にする目的のために、それぞれの専門科目の基礎部分を講義する「専門教養」科目が置かれている。

他の領域の科目は、広く浅く学修することにも意味がないわけではないが、自らが選択した専門領域の知の体系がどのように構築されているのかを他との比較の中で確認するためには、他の領域の科目についても、その体系性を確認できる程度には深く学ぶ必要がある。専門教養科目と全学オープン科目の一部を組み合わせた「パッケージ」が複数用意されており、その中から一定の単位数を修得することが望ましい。

### パッケージ名

日本の文学と歴史、アジアの歴史と文化、世界の文化と思想、法学・政治学、経済学、経営学

## 6. ライフデザイン科目群

目標を達成するためには、達成までの具体的な道筋を描くことが大切である。そして、描いた道筋に沿って漫然と進むのではなく、正しい道りを歩んでいるか確かめ、場合によっては引き返すことも選択しなければならない。ライフデザイン科目群は、大学における学修や卒業後のキャリア形成含め、自らの行動について、短期、中期および長期的な計画を立てる力およびそれを実行する力、ならびに必要なときに、状況を見極めて、それに対応する力の涵養を目指す科目群である。

### 導入科目（人間開発学部のみ履修可）

調査、発表、討議といった学問の基礎的スキルを学ぶとともに、実践的活動を通して主体性や協調性を涵養し、大学における修学の基礎力を培う。

### スポーツ科学

人間の身体の仕組みやスポーツなどの身体運動が健康の保持増進に果たす役割を理解し、生涯にわたって健康的な生活を送るための知識と体験を得る。

### ライフデザイン

自己認識を深め、大学4年間の学修計画を立て、学生から社会人へのキャリア展開の多様な可能性を認識し、社会との関わりにおいて将来を構想する力を獲得する。

### PCAP (Practical Career Advancement Program) 科目

卒業後公務員職に就くこと、またはグローバルなビジネスに従事することを目指して、必要な実践的知識と技能を獲得し、社会人基礎力を身につける。

### 【卒業に必要な最低単位数】

下表内の数値は、各学科が科目区分ごとに指定している〔必修・選択必修科目〕の卒業要件単位数を表しています。卒業要件科目として指定される〔必修・選択必修科目〕は、所属する学科ごとに異なるため、下表をよく確認したうえで履修してください。

科目区分		初等教育学科	健康体育学科	子ども支援学科
國學院科目群	神道と文化	2	2	2
	國學院の学び			
	日本文化を知る			
	Japan Studies			
言語スキル科目群	アカデミック・リテラシーズ	英語 8 以上	英語 8 以上	英語 8 以上
	基礎日本語			
	英語			
	外国語			
STEM 系科目群	データ・サイエンス	4 以上	4 以上	4 以上
	科学と論理			
	まちづくりとエンジニアリング			
シチズンシップ科目群	政治と社会参加	4 以上	4 以上	4 以上
	法と社会参加			
	経済と社会参加			
	行政と市民生活			
	情報化社会と市民			
	共存・共生の思想			
専門教養科目群	日本の文学と歴史			
	アジアの歴史と文化			
	世界の文化と思想			
	法学・政治学			
	経済学			
	経営学			
ライフデザイン科目群	導入科目	2	2	2
	スポーツ科学	2	2	3
	ライフデザイン			
	PCAP 科目 ※			
共通教育科目合計		26	26	26

※ PCAP 科目は、「Practical Career Advancement Program」選択者のみ履修できる。

## Ⅱ. 共通教育プログラムの履修方法

### 【人間開発学部】

#### 1. 國學院科目群（初等教育・健康体育・子ども支援学科）

授業科目	開講	単位	学年	履修方法	備考
神道と文化	半期	2	1	2単位必修	
國學院の学び	半期	2	1		( )内のテーマが異なれば 同一の授業科目でも複数履修可
日本文化を知る	半期	2	1		
Japan Studies	半期	2	2		8単位まで複数履修可

#### 2. 言語スキル科目群（初等教育・健康体育・子ども支援学科）

言語スキル科目群から8単位以上修得すること。ただし、英語8単位を含まなければならない。

科目区分	授業科目	開講	単位	学年	履修方法	備考
言語技能と リテラシー ズ	アカデミック・ リテラシーズⅠ	半期	2	1	8単位選択必修	1・2年次のみ履修可
	アカデミック・ リテラシーズⅡ	半期	2	1		「アカデミック・リテラシーズⅠ」 を修得済みであることが望ましい
	基礎日本語	半期	2	1		( )内のテーマが異なれば 同一の授業科目でも複数履修可
英語	英語Ⅰ	半期	2	1	8単位選択必修	「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」は 習熟度別クラス
	英語Ⅱ	半期	2	2		
	英語Ⅲ	半期	2	1		
	英語Ⅳ	半期	2	1		
	英語Ⅴ	半期	2	1		
外国語	入門ドイツ語	半期	2	1		
	ドイツ語Ⅰ	半期	2	1		
	ドイツ語Ⅱ	半期	2	1		
	ドイツ語Ⅲ	半期	2	2		
	ドイツ語Ⅳ	半期	2	2		
	入門フランス語	半期	2	1		
	フランス語Ⅰ	半期	2	1		
	フランス語Ⅱ	半期	2	1		
	フランス語Ⅲ	半期	2	2		
	フランス語Ⅳ	半期	2	2		
	入門中国語	半期	2	1		
	中国語Ⅰ	半期	2	1		
	中国語Ⅱ	半期	2	1		
	中国語Ⅲ	半期	2	2		
	中国語Ⅳ	半期	2	2		
	入門韓国語	半期	2	1		
	韓国語Ⅰ	半期	2	1		
	韓国語Ⅱ	半期	2	1		
	ロシア語Ⅰ	半期	2	1		
	ロシア語Ⅱ	半期	2	1		
スペイン語Ⅰ	半期	2	1			
スペイン語Ⅱ	半期	2	1			
イタリア語Ⅰ	半期	2	1			
イタリア語Ⅱ	半期	2	1			

外国語	ポルトガル語Ⅰ	半期	2	1	海外留学による単位認定	単位認定は同一言語内において2科目4単位まで(同一留学先に複数回参加した場合、二度目以降は単位認定対象外)
	ポルトガル語Ⅱ	半期	2	1		
	留学ドイツ語	半期	2	1		
	留学フランス語	半期	2	1		
	留学中国語	半期	2	1		
	留学外国語	半期	2	1		

## 英語科目の履修方法

原則として、入学時学力診断の結果に基づく習熟度別クラスの指定により、1年前期に「英語Ⅰ(LS)」、1年後期に「英語Ⅰ(RW)」、2年前期に「英語Ⅱ(LS)」、2年後期に「英語Ⅱ(RW)」を履修する。3年以降は各自の選択により、「英語Ⅲ～Ⅴ」を履修する。ただし、所定の条件(下記参照)を満たす場合には、学年に関わらず「英語Ⅲ～Ⅴ」を履修することができる(「教員免許状の取得を希望する場合は、「英語Ⅰ～Ⅲ」から1科目以上を修得すること)。手続きの詳細は「時間割作成上の注意事項」を参照すること。

「英語Ⅲ～Ⅴ」は、同一の科目名であっても、( )内に示される内容が異なれば複数履修することができるが、1年次に同一学期中に履修できる「英語」科目は、Ⅰ～Ⅴの違いに関わりなく、2科目4単位までである。なお、1年前期の「英語Ⅰ(LS)」で単位を修得できなかった場合、「時間割作成上の注意事項」の手続きに従い、1年後期以降に「英語Ⅲ(総合基礎)」等を履修することで、未修得の単位を充足することができる(1年後期の「英語Ⅰ(RW)」が修得できなかった場合は2年前期以降、2年前期の「英語Ⅱ(LS)」が修得できなかった場合は2年後期以降に「英語Ⅲ(総合基礎)」等で充足することができる。)

### <英語Ⅲを履修するための条件>

[1年前期] (①～④のいずれかを満たしている。)

- ① TOEIC L&R (IP) 340 以上
- ② TOEFL ITP 422 以上
- ③ 英検準2級以上
- ④ 英語Ⅲを履修する意欲がある。

[1年後期] (①～⑤のいずれかを満たしている。)

- ① TOEIC L&R (IP) 340 以上
- ② TOEFL ITP 422 以上
- ③ 英検準2級以上
- ④ 英語Ⅲを履修する意欲がある。
- ⑤ 英語Ⅰ(LS)の単位を修得していない(この場合、「英語Ⅲ(総合基礎)」の履修を推奨する。なお、習熟度別クラスの「英語Ⅰ(RW)」は既に指定されているため、同一学期中に4単位履修する場合のみ履修可能)。

[2年前期] (①～⑤のいずれかを満たしている。)

- ① TOEIC L&R (IP) 340 以上
- ② TOEFL ITP 422 以上
- ③ 英検準2級以上
- ④ 英語Ⅲを履修する意欲がある。
- ⑤ 「英語Ⅰ(LS)」または「英語Ⅰ(RW)」の単位を修得していない(この場合、「英語Ⅲ(総合基礎)」等の履修を推奨する。すでに「英語Ⅲ(総合基礎)」の単位を修得している場合は他のテーマの英語Ⅲを履修する。なお、習熟度別クラスの「英語Ⅱ(LS)」は既に指定されているため、同一学期中に4単位履修する場合のみ履修可能)。

[2年後期] (①～⑤のいずれかを満たしている。)

- ① TOEIC L&R (IP) 340 以上
- ② TOEFL ITP 422 以上
- ③ 英検準2級以上
- ④ 英語Ⅲを履修する意欲がある。



- ⑤ 「英語Ⅰ (LS)」、「英語Ⅰ (RW)」または「英語Ⅱ (LS)」の単位を修得していない(この場合、「英語Ⅲ(総合基礎)」等の履修を推奨する。すでに「英語Ⅲ(総合基礎)」の単位を修得している場合は他のテーマの英語Ⅲを履修する。なお、習熟度別クラスの「英語Ⅱ(RW)」は既に指定されているため、同一学期中に4単位履修する場合のみ履修可能。)

#### <英語Ⅳを履修するための条件>

(①~⑤のいずれかを満たしている。)

- ① TOEIC L&R (IP) 470 以上
- ② TOEFL ITP 452 以上
- ③ 英検 2 級以上
- ④ 英語Ⅳを履修する意欲がある。
- ⑤ 英語Ⅲを2単位以上修得している。

#### <英語Ⅴを履修するための条件>

(①~⑤のいずれかを満たしている。)

- ① TOEIC L&R (IP) 550 以上
- ② TOEFL ITP 470 以上
- ③ 英検準1 級以上
- ④ 英語Ⅴを履修する意欲がある。
- ⑤ 英語Ⅳを2単位以上修得している。

### 3. STEM 系科目群（初等教育・健康体育・子ども支援学科）

STEM 系科目群またはシチズンシップ科目群から、4 単位以上修得すること。

科目区分	授業科目	開講	単位	学年	履修方法	備考
データ・サイエンス	数的推論Ⅰ	半期	2	1	STEM 系科目群 または シチズンシップ 科目群から 4 単位選択必修	「数的推論Ⅰ」が修得済みであること
	数的推論Ⅱ	半期	2	1		
	コンピュータと情報Ⅰ ※	半期	2	1		「コンピュータと情報Ⅰ」が修得済みであることが望ましい また、（ ）内のテーマが異なれば同一の授業科目でも複数履修可
	コンピュータと情報Ⅱ	半期	2	1		
	情報科学入門	半期	2	1		
	データ・リテラシー	半期	2	1		
科学と論理	論理的思考法	半期	2	1		（ ）内のテーマが異なれば同一の授業科目でも複数履修可
	科学的思考法	半期	2	1		
	地球環境と人間	半期	2	1		
	宇宙物理学入門	半期	2	1		
まちづくりとエンジニアリング	まちづくり基礎	半期	2	1	（ ）内のテーマが異なれば同一の授業科目でも複数履修可	

※ 子ども支援学科については1年次に履修が義務付けられている。

### 4. シチズンシップ科目群（初等教育・健康体育・子ども支援学科）

STEM 系科目群またはシチズンシップ科目群から、4 単位以上修得すること。

授業科目	開講	単位	学年	履修方法	備考
法学(日本国憲法)	半期	2	1	STEM 系科目群 または シチズンシップ 科目群から 4 単位選択必修	（ ）内のテーマが異なれば同一の授業科目でも8 単位まで履修可。
政治と社会参加	半期	2	1		
法と社会参加	半期	2	1		
経済と社会参加	半期	2	1		
行政と市民生活	半期	2	1		
情報化社会と市民	半期	2	1		
共存・共生の思想	半期	2	1		

## 5. 専門教養科目群（初等教育・健康体育・子ども支援学科）

自身の所属する学部・学科において専門教育科目として開講されている科目は、専門教養科目として共通教育科目または全学オープン科目の単位に算入することはできないが、専門教育科目の単位として算入することはできる。

### 日本の文学と歴史パッケージ <文学部開講科目>

区分	授業科目	開講	単位	学年	履修方法	備考
基礎	専門教養科目 (共通教育科目として算入)	日本中古文学研究Ⅰ	半期	2	2	
	地域からみた日本の歴史Ⅰ	半期	2	1		
	地域からみた日本の歴史Ⅱ	半期	2	1		
	地域からみた日本の歴史Ⅲ	半期	2	1		
	地域からみた日本の歴史Ⅳ	半期	2	1		
	日本美術史 A	半期	2	1・2		
発展	全学オープン科目 (全学オープン科目として算入)	日本文学史Ⅰ	半期	2	2	
		日本文学史Ⅱ	半期	2	2	
		日本中古文学研究Ⅱ	半期	2	2	
		日本中世文学研究Ⅰ	半期	2	3・4	
		日本中世文学研究Ⅱ	半期	2	3・4	
		日本近世文学研究Ⅰ	半期	2	3・4	
		日本近世文学研究Ⅱ	半期	2	3・4	
		日本時代史Ⅰ	半期	2	1	
		日本時代史Ⅱ	半期	2	1	
		日本時代史Ⅲ	半期	2	1	
		日本時代史Ⅳ	半期	2	1	
		日本時代史Ⅴ	半期	2	1	
		日本時代史Ⅵ	半期	2	1	
		日本時代史Ⅶ	半期	2	1	
		日本時代史Ⅷ	半期	2	1	
日本思想史 A	半期	2	1・2			
日本思想史 B	半期	2	1・2			
日本美術史 B	半期	2	1・2			

アジアの歴史と文化パッケージ <文学部開講科目>

区分	授業科目	開講	単位	学年	履修方法	備考
基礎	専門教養科目 (共通教育科目として算入)	日本上代文学研究Ⅰ	半期	2	2	
		日本上代文学研究Ⅱ	半期	2	2	
		中国「君子」の世界	半期	2	1	
		中国古典の世界	半期	2	1	
		中国文化の世界	半期	2	1	
		東アジア史Ⅰ	半期	2	1	
		東アジア史Ⅱ	半期	2	1	
発展	全学オープン 科目 (全学オープン 科目として算 入)	中国学特殊講義Ⅰ(文学)	半期	2	3・4	
		中国学特殊講義Ⅵ(思想・宗教)	半期	2	3・4	
		中国学特殊講義Ⅶ(思想・宗教)	半期	2	3・4	
		中国学特殊講義Ⅻ(生活文化)	半期	2	3・4	
		中国学特殊講義ⅩⅢ(生活文化)	半期	2	3・4	
		東洋地域史Ⅰ	半期	2	1	
		東洋地域史Ⅱ	半期	2	1	
		東洋地域史Ⅲ	半期	2	1	
		東洋地域史Ⅳ	半期	2	1	
		中国思想史A	半期	2	1・2	
		中国思想史B	半期	2	1・2	
		インド思想史A	半期	2	2・3	
		インド思想史B	半期	2	2・3	
		東洋美術史A	半期	2	1・2	
東洋美術史B	半期	2	1・2			

世界の文化と思想パッケージ <文学部開講科目>

区分	授業科目	開講	単位	学年	履修方法	備考	
基礎	現代中国の世界	半期	2	1			
	外国文化入門	半期	2	1		( )内のテーマが異なれば同一の授業科目でも複数履修可(ただし計4単位まで)	
	専門教養科目 (共通教育科目として算入)	比較文化論Ⅰ	半期	2	2		
	比較文化論Ⅱ	半期	2	2			
	論理学A	半期	2	1・2			
	芸術学A	半期	2	1・2			
	美学A	半期	2	2・3			
発展	全学オープン科目 (全学オープン科目として算入)	英米地域文化論Ⅰ	半期	2	2		
	英米地域文化論Ⅱ	半期	2	2			
	ヨーロッパ地域文化論Ⅰ	半期	2	2			
	ヨーロッパ地域文化論Ⅱ	半期	2	2			
	中国地域文化論Ⅰ	半期	2	2			
	中国地域文化論Ⅱ	半期	2	2			
	芸術学B	半期	2	1・2			
	美学B	半期	2	2・3			
	西洋美術史A	半期	2	1・2			
	西洋美術史B	半期	2	1・2			
	比較思想A	半期	2	3・4			
	比較思想B	半期	2	3・4			
	比較芸術学A	半期	2	3・4			
	比較芸術学B	半期	2	3・4			

法学・政治学パッケージ <法学部開講科目>

区分	授業科目	開講	単位	学年	履修方法	備考	
基礎	専門教養科目 (共通教育科目として算入)	国際政治入門	半期	2	1		
		政治哲学入門	半期	2	1		
		比較政治入門	半期	2	1		
		地域研究入門	半期	2	1		
		比較法入門	半期	2	1		
		犯罪学入門	半期	2	1		
		法史学入門	半期	2	1		
発展	全学オープン科目 (全学オープン科目として算入)	刑事政策 A	半期	2	3・4		
		刑事政策 B	半期	2	3・4		
		法制史 A	半期	2	3・4		
		法制史 B	半期	2	3・4		
		外国法 A	半期	2	3・4		
		外国法 B	半期	2	3・4		
		政治学概論	半期	2	1		
		国際政治 A	半期	2	2		
		国際政治 B	半期	2	2		
		政治哲学 A	半期	2	3・4		
		政治哲学 B	半期	2	3・4		
		比較政治 A	半期	2	3・4		
		比較政治 B	半期	2	3・4		
		地域研究	半期	2	3・4		題目・テーマが異なれば複数履修可
		地域研究演習	半期	2	3・4		題目・テーマが異なれば4単位まで複数履修可

経済学パッケージ <経済学部開講科目>

区分	授業科目	開講	単位	学年	履修方法	備考/履修前提条件	
基礎	専門教養科目 (共通教育科目として算入)	日本の経済	半期	2	1		
		経済理論入門	半期	2	1		
		世界経済入門	半期	2	1		
		経済史入門	半期	2	1		
		統計入門	半期	2	1		
		経済経営数学入門	半期	2	1		
		経済学史入門	半期	2	2		
発展	全学オープン科目 (全学オープン科目として算入)	マクロ経済Ⅰ	半期	2	2		経済理論入門
		ミクロ経済Ⅰ	半期	2	2		経済理論入門
		財政の基礎	半期	2	3		
		金融の基礎	半期	2	3		
		マクロ経済Ⅱ	半期	2	2		経済理論入門
		ミクロ経済Ⅱ	半期	2	2		経済理論入門
		ビジネスリサーチ	半期	2	2		経済経営数学入門
		現代日本経済	半期	2	3		
		国際経済	半期	2	3		世界経済入門
		労働経済	半期	2	3		現代日本経済
		社会経済学	半期	2	3		
		地域と都市の経済	半期	2	3		経済理論入門

経営学パッケージ <経済学部開講科目>

区分	授業科目	開講	単位	学年	履修方法	備考/履修前提条件	
基礎	専門教養科目 (共通教育科目として算入)	経営入門	半期	2	1		
		会計入門	半期	2	1		
		日本の経済	半期	2	1		
		統計入門	半期	2	1		
		経済経営数学入門	半期	2	1		
		簿記の基礎	半期	2	2		会計入門
		経営学史	半期	2	3		経営入門
発展	全学オープン 科目 (全学オープン 科目として算 入)	経営戦略	半期	2	3		経営入門
		経営組織	半期	2	3		経営入門
		マーケティングの基礎	半期	2	3		経営入門
		財務会計	半期	2	3		会計入門
		ビジネスリサーチ	半期	2	2		経済経営数学入門
		現代ビジネス	半期	2	3		経営入門
		企業財務	半期	2	3		経営入門
国際経営	半期	2	3		経営入門		



## 6. ライフデザイン科目群（初等教育・健康体育・子ども支援学科）

ライフデザイン科目群から、初等教育・健康体育学科の学生は4単位以上、子ども支援学科の学生は5単位以上修得すること。

ただし、初等教育・健康体育学科の学生は導入基礎演習2単位、スポーツ実技A 1単位、スポーツ実技B 1単位、子ども支援学科の学生は導入基礎演習2単位、スポーツ実技A 1単位、スポーツ科学論2単位を含まなければならない。

科目区分	授業科目	開講	単位	学年	履修方法		備考
					初等教育 健康体育	子ども支援	
導入科目	導入基礎演習	半期	2	1	2単位必修		
スポーツ 科学	スポーツ実技A	半期	1	1	1単位必修		
	スポーツ実技B	半期	1	1	1単位必修	履修不可	
	スポーツ科学論	半期	2	1		2単位必修	
	生涯スポーツ実技	半期	1	1			8単位まで複数履修可
キャリア 形成支援	ライフデザインⅠ	半期	2	1			( )内のテーマが異なれば同一の授業科目でも複数履修可
	ライフデザインⅡ	半期	2	1			( )内のテーマが異なれば同一の授業科目でも複数履修可
PCAP 科目	論理・推理・解釈	半期	2	2・3	詳細は P47・P48 参照		PCAP 選択者のみ履修可
	基礎法律学Ⅰ	半期	2	1・2			
	基礎法律学Ⅱ	半期	2	2・3			
	応用法律学	半期	2	2・3			
	論述問題演習	半期	2	3・4			
	パブリックサービス・ インターンシップ	半期	2	2・3			
	Qualification English	半期	2	2			
	Business English Writing	半期	2	2			
	Advanced Business English	半期	2	2			
	Economics of GlobalizationⅠ	半期	2	2・3			
	Economics of GlobalizationⅡ	半期	2	2・3			
	グローバルインター ンシップ&セミナー	半期	2	2・3			

※ 「ライフデザイン（スタートアップ）」の履修は一度限りであり、単位修得の可否にかかわらず二度目の履修をすることはできない。また、原則として2年次以降に履修することはできない。